



No.454

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)
〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4
TEL・052-731-0780
FAX・052-732-5298
E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp
<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

一般社団法人名古屋工業会会誌

こきそ

2013 7-8 月号

【平成25年度定期総会・会員総会報告】

理事長挨拶

会長挨拶

議事内容

特別講演 「生き甲斐」って、なに? 「新しい公共」って、なに?

【ホットライン】

平成25年度 学長特別研究助成金授与式

【随 筆】

翁のたわごと

【学生コーナー】

「日本学術振興会育志賞」受賞一名工大からは初—
砥石開発!! CFRPに10mmの穴開け
新微細化剤でAI鋳物の強度向上

【学内ニュース】

第1回世界的著名研究者講演会を開催

【新聞記事コーナー】

名工大で子供たちが宇宙・科学にふれる
ナナちゃんを名古屋駅の核に
妊婦の発汗量は一般女性の1.5倍

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース



平成25年度 名古屋支部の“総会と見学会”

平成25年度名古屋支部の総会と見学会を次の通り開催致します。

会員の皆様（家族同伴可）はふるってご参加下さい。

記

1. 日 時：平成25年 9月14日(土) 8:15栄テレビ塔北 観光バス駐車場に集合
2. 行 程：栄テレビ塔北駐車場 (8:30) → ホテル平安の森京都【総会&昼食】(11:15～13:45) → 高台寺、霊山観音、二年坂、三年坂など自由散策 (14:00～15:30) → 栄オアシス21付近 (18:20頃)
3. 会 費：1名 6,000円（同伴家族も同じ。小学生以下は半額。）
4. 募集人数：約120名（先着順）
5. 申込先：下記の支部連絡先に直接ご連絡いただくか、単科会連絡幹事へ。
締切は8月10日(土)

支部連絡先：橋本 忍（名古屋工業大学環境材料工学科内 名古屋工業会名古屋支部庶務）
E mail：gokisonagoya@gmail.com
TEL：052-735-5291 / FAX：052-735-5281

C E 会	山盛 康 (C③)	TEL 052-691-5351	名窯会	多賀 茂 (Y62)	TEL 090-6801-3353
光鱈会	宇佐美智伯 (A⑥)	TEL 052-704-6137	名晶会	小山 敏幸 (K61)	TEL 052-735-5124
巴 会	杉山 耕一 (M⑥)	TEL 0562-55-7772	計測会	大鑄 史男 (F49)	TEL 052-735-5393
電影会	三宅 正人 (E60)	TEL 090-3581-4472	経友会	仁科 健 (B50)	TEL 052-735-5396
双友会	泉地 正章 (W44)	TEL 052-837-7271	情友会	犬塚 信博 (J62)	TEL 052-735-5050
緑 会	大橋 聖一 (D45)	TEL 0533-87-3741			

各単科会幹事様はメールにて参加者情報をご連絡いただけますと幸いです。

《 総 会 と 見 学 会 の 注 意 事 項 》

1. 当日および前日のキャンセルは、参加費の払い戻しができません。
2. ご担当者は、参加者名簿を、事前に支部連絡先まで必ず提出してください。
3. 開催に関するお問い合わせ、緊急の場合など、開催直前のご連絡は、以下の旅行会社までお願いします。

旅行社：名鉄観光バス(株)名古屋支店

担 当：高橋 裕司

住 所：名古屋市中川区中京南通り2-7

電 話：052-354-6909

FAX：052-363-0210

表紙写真説明

「神々しく」(大阪万博公園の蓮)

撮影者 安村隆志 (W①)

平成25年度 定期総会・会員総会 報告

一般社団法人名古屋工業会平成25年度定期総会ならびに会員総会が5月25日(土)、中日パレスにおいて開催された。

今回は、一般社団法人へ移行した初めての定期総会で、理事長、副理事長、常務理事、及び代議員が出席した。二枚常務理事から報告事項が説明された後、24年度事業報告及び収支決算案、25年度事業計画及び収支予算案について審議され、原案どおり議決された。

続いて開催された会員総会では、25年度にご逝去された会員物故者のご冥福を祈り、1分間の黙祷を捧げた後、篠田理事長の開会挨拶、高橋学長の会長挨拶があり、定期総会での決議事項等が報告された。

次に総会行事として、理事長から叙位叙勲等表彰者に記念品、母校定年退職職員に感謝状と記念品、会員で卒業満70・60・50・40周年の代表者に記念品が贈呈された。

続いて、特定非営利活動法人 ア！安全・快適街づくり理事長の石川金治氏（C33）から【「生き甲斐」って、なに？「新しい公共」ってなに？】と題して特別講演をいただき、減災のための自助・共助の大切さなど時宜を得た講演内容であったと好評を博した。

会場を移して開催された懇親パーティーでは、木越副理事長の司会で北村副理事長の挨拶の後、春日副理事長の乾杯の発声で始まり、ナゴヤシティプラスアンサンブルによる演奏の中で、杯を交わしながら和やかに歓談、旧交を温めた。最後に、恒例となった学歌「東海の邦のほまれに」を声高らかに歌い、阿部副理事長の閉会の辞で盛会裡に閉会した。

なお、今回受付に設置した大学基金募金箱には26,500円が寄せられ、「工業会総会出席者有志」として大学基金へ寄附した。ご協力ありがとうございました。

平成25年度 定期総会 次第

1. 議 事

(報告事項)

1. 社団法人名古屋工業会の解散と一般社団法人名古屋工業会の設立について
2. 一般社団法人の役員について

(決議事項)

1. 社団法人名古屋工業会平成24年度事業報告及び収支決算案について
2. 一般社団法人名古屋工業会平成25年度事業計画及び収支予算案について

平成25年度 会員総会 次第

1. 理事長挨拶 篠田陽史 一般社団法人名古屋工業会理事長

2. 会長挨拶 高橋 実 国立大学法人名古屋工業大学学長

3. 報告事項 定期総会での決議事項の報告

4. 行 事

イ 叙位叙勲等表彰者に記念品贈呈(敬称略)

近藤靖彦 D40 不破幸雄 E30 米沢 敦 W20

ロ 名古屋行工業大学定年退職職員へ感謝状等贈呈(敬称略)

粥川裕平 増田順次 安藤 茂 廣瀬久幸 千原 務

ハ 名古屋工業大学卒業満70、60、50、40周年の会員へ記念品贈呈

(70年ー昭和18年卒)ー44名

(60年ー昭和28年卒)ー57名

(50年ー昭和38年卒)ー99名

(40年ー昭和48年卒)ー104名

ニ 特別講演

講師：石川金治氏（C33）特定非営利活動法人 ア！安全・快適街づくり理事長

演題：【「生き甲斐」って、なに？「新しい公共」って、なに？】

ー安心で住みよい街を創る原動力は地域の力です。地域力で東海地震を乗り越えようー

5. 懇親パーティー

理事長挨拶

一般社団法人 名古屋工業会
理事長 篠田 陽史 (M33)

平成25年度一般社団法人名古屋工業会の第1回会員総会を開会するにあたり、会員の皆様には、遠く北海道から九州まで全国より参集いただき、誠に有難うございます。

皆様には既にご存知のように、社団法人名古屋工業会は法人創立以来47年に亘る長い歴史を終え、新法人法による一般社団法人名古屋工業会として平成25年4月1日発足しました。

この記念すべき第1回会員総会に立会うことが出来たこと、皆様と共に祝いたいと存じます。新しい一般社団法人名古屋工業会は今までと異なり、決議機関は正会員より選出された代議員による定期総会となります。

本日12時30分に開会されました平成25年度第1回定期総会において、報告事項及び決議事項である第一号議案、旧社団法人名古屋工業会の平成24年度事業報告及び決算案。第二号議案、一般社団法人名古屋工業会の平成25年度事業計画及び予算案は全員賛成で決議されました。

報告事項及び決議された議案に付きましては、二枚常務理事より、詳しく報告いたしますが、新法人の新しい方向を決める平成25年度事業計画及び予算案を作るにあたっての考え方を述べさせていただきます。

母校が「耀く大学、ますます耀く大学」として存在することは、卒業生を含めた全学の願いであり、それに向かって母校を支援する事は、名古屋工業会にとって最も大切な事であり。定款の事業目的の第一に謳っています。

支援にあたっての考え方は、先生方には国際的に高く評価される研究及び国際交流、在学生には社会に出てもグローバルな人材と評価される学生の育成、特に力を入れる項目の課外活動では、トップレベルを目指す活動により、優れたコミュニケーション能力を備え、忍耐力と



ガッツのある人材を育てる事であり、これらは大学、工業会一致した考えです。

加えて、今年度より入学式の際、各学科の最優秀入学者に対し、名古屋工業会特別奨学金の授与及び、お祝いの言葉を述べる事になりました。

学位記授与式での工業会賞とお祝いの言葉と合わせ、優秀な学生を励ます機会が出来ました。

更に入学式後保護者の皆様に名古屋工業会の役割についてお話する事が出来、その中で母校が「耀く大学、ますます耀く大学」として存在するよう支援する事が、名古屋工業会の最重要目的である事をお話しました。

これらを含めた大学支援の平成25年度予算額は約4,600万円、名古屋工業会総予算の47%に当たります。

工業会の更なる充実のための活動については、重点的に且つ継続的に進めるものを会員増強活動及び会員活性化活動のなかで展開しています。

昨年度より大学支援のもと、入学時の諸納金一括納付を実施し、新入生全員入会に向け大幅に前進することが出来、財政基盤強化も目途が立ってきました、平成25年度も89.2%と留学生を除けばほぼ全員入会に近いと言えます。

この結果財政面で大学支援が出来るようになりました。

学生に対する支援は大学支援事業の中で行っていますが、会報の「ごきそ」は配布されません。

活性化活動として「ごきそ」では大学情報の

更なる提供、単科会、各種OB会等の会友のタイムリーな情報提供を進めますが、加えてホームページの一新が必要です。昨年、今年と学生会員が大幅に増加したことで緊急の事業となります。重点的に予算を計上しました。

卒業生の未入会者対策はこの一年じっくり考えます。

会員活性化活動では先程述べた「ごきそ」の充実、ホームページの一新が緊急ですが、卒業生名簿の充実と使いやすさは最重要の基盤事業です。

卒業生名簿はプライバシー保護もあり、公式の名簿は2001年を最後に作られていません。

卒業生をどう把握し、情報をどう伝達するかは、大学、工業会、それに単科会や各種OB会等にとって避けては通れない問題です。

平成24年度より卒業生名簿は大学が管理、データベース化され、24年度入学者から生涯メールアドレスが入学時に渡される様になりました。

システムはほぼ出来ましたが、生涯メールアドレスの普及、活用はまだスタート台に立っていない過ぎません。使える卒業生名簿はまだこれからです。

ただこのメールアドレスは名簿の校正、卒業後の大学、工業会との交流に、ひいては単科会や各種同窓会にとって無くてはならないものになります。我々卒業生は名古屋工業大学卒業生連携室のホームページから入手出来ます。

一人でも多くの人がこの生涯メールアドレスを取得し、登録、活用してゆくことが必要です。

平成25年度は大学、工業会、単科会が協力しあい、それぞれの持つデータの照合を行い、使いやすいものにします。単年度で終わる事業ではありません。会員名簿整備予算を付け、続けて行きます。

最後が卒業生の大学支援として、教育、研究環境の整備充実を目的とした、大学基金への寄付です。

「輝く、ますます輝く母校を願って」卒業生

の皆様に寄付をお願いすると共に、工業会はあらゆる機会にこの事業を強力に進めてまいります。ちなみに今年の入学式に際し保護者の方々に、寄付を勧める資料を「ごきそ」と一緒に渡しております。

一般社団法人名古屋工業会最初の一年です。一層の強いご支援、ご協力をお願い致します。



叙位叙勲等表彰者に記念品贈呈



母校退職職員へ感謝状と記念品贈呈



卒業満70周年会員に記念品贈呈

会 長 挨 拶

国立大学法人 名古屋工業大学 学長
一般社団法人 名古屋工業会 会長
高橋 実

皆様、こんにちは。学長の高橋でございます。

本日は、名古屋工業会が一般社団法人に移行し、初めての会員総会が盛大に開催されることをともに慶びます。また、社団法人移行に関しては、篠田理事長をはじめ、関係各位のご尽力に感謝申し上げます。

理事長のご挨拶にもありましたように、今年も工業会への新入生加入率が実質100%を達成できました。これに伴い、昨年度より、大学に対して学生支援経費ならびに学長宛寄付金が大幅に増額されました。学生支援は主に課外活動、入試成績優秀者表彰、学長宛寄付金に関しては大学の国際化推進の一環として学生・若手研究者の海外派遣、留学生の受け入れ支援そして世界トップクラスの研究者の招待講演に使わせて頂いています。また別途、研究者助成のための支援も受けています。諸事業を展開し、工業会との連携をさらに強化するために、北村正先生を室長とする卒業生連携室スタッフを充実させました。なお、本日、開催案内を配布していますが、来月6月には本学OBであり、現首都大学教授の春田正毅先生をお招きし、「第一回世界的著名研究者講演会」として金ナノ粒子の触媒効果に関する研究成果をお話し頂く予定です。皆様にも是非ご来場頂ければと存じます。

本学ならびに国立大学の近況について幾つか触れます。本年4月に名古屋市立大学薬学研究科との共同大学院博士後期課程「ナノメディシン科学専攻」を開設しました。意欲的な取組として全国的に注目されています。研究関係では本年初夏に「窒化物半導体マルチビジネス創生センター」が竣工し、産学一体となったパワー半導体の研究拠点を目指します。また、老朽化対策が進む中、最後の教育研究棟である17号館を「スマートエネルギー研究棟」として改築



し、本年夏に着工します。さらに、本学の材料・物質分野の分析・評価装置は全国的にもトップクラスであり、文部科学省より引き続いて大型装置の予算が認められ、収容スペースが不足する嬉しい悲鳴が上がっています。これを解消するために大型設備基盤センターを増築します。

国際展開については、諸般の事情により、残念ながら外国人留学生は中国を中心に減少気味です。その一方で、文部科学省の支援プログラムの獲得や名古屋工業会からの支援金の活用によって、日本人学生や若手研究者の海外派遣数は急増しており、さらに推進してまいります。なお、派遣・受け入れそして帰国留学生支援などの諸事業を強化するために、一昨年の北京海外事務所の設置に続き、今年3月にはマレーシア海外事務所を設置し、7月にはドイツ海外事務所を開設する運びとなっています。

国立大学の一般的動向ですが、我が国の厳しい財政状況を受け、運営費交付金の削減が続き、各大学とも教職員の配置や日常的な教育・研究環境の整備に苦慮しています。国立大学協会としても、本日配布させて頂いていますが「国立大学の機能強化—国立大学の自主的・自律的な機能強化を目指して」として国立大学総体として目指すべき教育・研究・人材育成を宣言し、それに必要な財政措置を訴え、国民ならびに政府への理解を求めているところです。

本学における教育改革状況ですが、学部・大学院一体改革は私の学長就任以来の最重点課題として、取り組んでいる事項です。改革は二つ

の柱からなります。一つ目は学部・大学院博士前期課程の六年間を一体とする教育課程の編成です。この改革については文部科学省にも理解を得ており、最近の全国工学部長会議においては「名工大の改革を参考にされたし」とのコメントも頂いております。実際、他大学でも本学を追いかけるように六年一貫教育を標榜する大学が増えています。また、限られた意見交換の範囲ですが、産業界、教育界からも支持を頂いています。二つ目はグローバル社会を見据えた新しい学部・専攻の設置です。この新設については、設置意義、学生定員、教職員資源、財政措置などの要素が絡み、学内審議と文部科学省との折衝を重ねているところです。

最後になりますが、創立以降、本学は教育・研究・人材育成の強化に邁進しており、あまたの優れた人材輩出などその実績は評価されるに

値するものと考えます。しかし、本学のみならず国立大学は厳しい目に晒されていることも確かです。いわゆるトップ大学として称せられる大学も、現状に甘んじることなく、入試改革、教育体制改革、大学連携などに着手しているのは周知のとおりです。本学としても、本学の歴史・実績・学風を大事にしつつ新しい時代に望まれる工学教育モデルを国内外に提示し、かつ実行することで工学を軸とした人類社会への貢献を果たして行きたいと思いをします。

数十年先を担う学生のためにも本学が今できること、今やらなければいけないこと、その一丁目一番地としての学部・大学院の一体改革に皆様方のより一層のご理解とご支援をお願いして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



総会風景



懇親パーティー

平成25年5月25日

会員各位

一般社団法人 名古屋工業会
理事長 篠田 陽史

平成25年度定期総会及び決議ご通知

平成25年5月25日(土)開催の一般社団法人名古屋工業会定期総会において、議案全てが議決されましたのでご通知申し上げます。

平成25年度 役員名簿

理 事(6)	篠田陽史	M33	春日敏宏	Y56
	阿部完二	D41	木越正司	C44
	二杵幸夫	K39	北村 正	Es48

監 事(2)	清水益文	F44	安藤正晴	B43
--------	------	-----	------	-----

代議員(84)

北海道(1)	秋山秀雄	Es43		
東 北(1)	栗村滋雄	C29		
東 京(7)	坂井利充	C42	平手孝士	Es42
	日沖 昭	Y40	松居和治	D51
	北野良幸	M46	石田交広	A63
	須賀久明	K43		
甲信越(2)	若林俊樹	M56	樋口 順	C48
静 岡(2)	藤井義麿郎	Es49	榊原 学	F48
三 河(11)	中島和彦	Y58	吉木 満	W56
	宇野富士夫	D③	佐藤章雄	F52
	沼沢成男	M59	高橋祐二	ZY⑦
	岡本幹浩	M60	中島茂伸	B53
	長谷部勲	K56	二井郁夫	K58
名古屋(23)	岩月幹雄	K56		
	阪野春彦	C56	兼岩 孝	C54
	藤田素弘	C60	内藤克己	A43
	水野直樹	M53	武内博明	Mb①
	富田庸公	Mb①	杉山耕一	Ma④
	菊間信良	Es57	森田良文	E62
	中村剛士	EJ⑤	廣瀬光利	E50
	長縄 渉	Es④	三宅正人	E60
	森川民雄	W45	伊藤 豪	D41
	緑 静男	D42	大橋聖一	D45
	多賀 茂	Y62	小山敏幸	K61
	守田賢一	F47	鷺見克典	B63
	犬塚信博	J62		
	中村啓之	A41	服部重夫	Y43
	立石吉行	M44	杉本 握	C35
岐 阜(7)	隠岐敏夫	D40	音無通男	W41
	各務剛児	C53	亀山義比古	A43
	堤 善治	M45	関尾光正	D41
	大久保陽一	Es44	笹島 康	Y39
	兼松克司	K42		
北 陸(2)	森 悦次	K46	馬場清和	M44
三 重(4)	小林 明	G49	北川貴志	C50
	久世憲志	C52	太田啓雅	E62
大 阪(5)	藤原康宏	E36	三木敏裕	E48
	岡崎格郎	A46	玉水新吾	A51
	田中耕嗣	G52		
兵 庫(2)	楠田修三	A50	井田 登	FM②
岡 山(2)	虫明正博	K59	中村浩巳	A54
広 島(1)	菱川躬行	E34		
山 口(1)	岸田潤三	C58		
山 陰(1)	森下 博	C56		
香 川(1)	浅野啓三	F60		
徳 島(1)	福井一博	A46		
愛 媛(1)	浜田裕介	D⑭		
高 知(1)	山内 健	C53		
九 州(2)	喜多村治雄	M40	安達高春	A46

支部長(22)

北海道	三田村好矩	F41
東 北	斎藤文伸	A51
東 京	阿部完二	D41
甲信越	若林俊樹	M56
静 岡	山之上誠	C49
三 河	近藤隆彦	B52
名古屋	春日敏宏	Y56
尾 張	玉田欽也	W32
岐 阜	山中茂樹	A34
北 陸	山岸憲一郎	K33
三 重	松林万行	D48
大 阪	木越正司	C44
兵 庫	楠田修三	A50
岡 山	宮崎勝秀	A45
広 島	菱川躬行	E34
山 口	岸田潤三	C58
山 陰	糸賀輝穂	C51
香 川	細谷芳照	C53
徳 島	後藤田啓造	M38
愛 媛	千羽茂雄	C43
高 知	山崎健司	A54
九 州	喜多村治雄	M40

相談役(3)	藤原俊朗	K31	市川日出男	D32
	牛込 進	Y33		

参 与(11)	日比貞雄	W35	大橋照男	K36
	宇佐美貞夫	F40	北村健治	B40
	小田征一郎	E36	河辺 彰	K40
	加藤作次	C40	張田吉昭	M43
	伊藤要蔵	B42	川村信之	E53
	楠田修三	A50		

願 問(7)	河本毅一	C32	戸茆吉孝	F39
	飯田秀郎	W33	石川金治	C33
	横田章宏	D33	道家清正	Y30
	玉田欽也	W32		

参 事(20)

	学 内		学 外	
C	藤田素弘	C60	安藤裕康	C48
A	麓 和善	A54	水谷友彦	A42
M	中村 隆	M50	大西 一	M49
E	内匠 逸	Es57	安藤幹人	E57
W	山本勝宏	W⑥	泉地正章	W44
D	森 秀樹	D52	伊藤 豪	D41
Y	本多沢雄	ZY⑥	牛田邦裕	Y51
K	小坂井孝生	K49	江崎正啓	K47
F	種村眞幸	F56	大鹿秀正	F47
B	仁科 健	B50	植村康一	B49

平成 24 年度事業報告

1. 組織改革に向けた活動

(1) 公益法人制度改革への対応

一般社団法人への移行に向けた改定定款案、関係規則案、公益目的支出計画案等について第 46 回通常総会で承認され、移行認可申請書を 9 月 25 日に愛知県知事へ提出した。平成 25 年 3 月 18 日に認可され、4 月 1 日付で一般社団法人へ移行する。これに伴い新法人に必要となる代議員選挙を実施し代議員を選出した。

(2) 財政基盤の充実

平成 24 年度新入生から実施した諸納金制度の導入により、財政基盤充実の足がかりができた。

2. 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援

国際的に通用する人材育成と大学の国際化を支援するため、学生・教職員の海外留学・派遣に対する学長裁量経費の充実に資する支援を行った。

- ① 学生の海外インターンシップ支援 10 名
- ② 学生の海外留学支援 22 名
- ③ 外国人留学生支援 7 名
- ④ 海外で主催する国際的セミナー支援 2 件
- ⑤ 海外インターンシップ先の開拓 1 件
- ⑥ 優秀な外国人留学生のリクルート 1 件

(2) 教育研究等支援

- ① 国際化推進のための国際的セミナーの開催支援を行った。(再掲)
- ② 教育支援として、第二部の授業科目「職業指導」を担当する非常勤講師（実務型教員）の派遣を継続して実施した。
- ③ 学生の就職支援の一環として、OB の企業トップによるセミナーおよび OB 講演会を開催した。
- ④ 名古屋工業大学の 10 名の教員に研究助成金を交付し、母校における研究の振興を図った。
- ⑤ 名古屋工業大学研究協力会に理事長が副会長として活動を支援した。
- ⑥ 理事長が名古屋工業大学諮問会議、学長選考会議及び基金運営委員会の委員として、また常務理事が基金運営委員会の委員として、母校発展のために卒業生の立場で積極的に提言を行った。
- ⑦ 名古屋工業大学が行う各種事業のための支援を行った。特に大学基金への寄付について、会誌への掲載や工業会の諸行事の機会に協力要請を行い、大幅な増加となった。
- ⑧ 名古屋工業大学の定年退職教職 21 名に、第 46 回通常総会で感謝状と記念品を贈呈した。

(3) 学生支援

- ① 国際化推進のための海外留学等の支援を行った。(再掲)
- ② 名古屋工業会賞の贈呈
平成 25 年 3 月 23 日举行的名古屋工業大学学位記授与式において、学長より推薦のあった成績優秀な卒業生 19 名に対し、理事長より工業会賞として表彰状並びに記念の時計を贈呈した。
- ③ 名古屋工業大学留学生後援会への援助を行った。
- ④ 課外活動奨励金を 36 団体に、また工大祭には本部及び名古屋支部より協賛金を贈呈した。
- ⑤ 平成 24 年 3 月卒業の終身会員に祝意を表し、記念品を贈った。
- ⑦ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援を行った。

3. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 会員増強活動 ()は前年度実績

①OB 未入会者への勧誘

- 1) 各支部において、支部総会等の行事の機会にそれぞれの方法で会員増強に努めた。
- 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、未入会者の入会勧誘を行った。
- 3) 企業の新規役員昇格者に対し祝電を送付するとともに入会勧誘を行った。
- 4) 本年度新規入会者

終身会員 29(17)名、 年度会員 32 (25)名、 合計 61(42)名

②新入学生への勧誘

本年度新規入会者

終身会員 1,028(308)名、 学生会員 0(20)名、 合計 1,028(328)名

③在校生の勧誘

- 1) 在学生の保護者に対して、大学からの情報誌の送付に同調して会誌「ごきそ」及び入会勧誘文書を同封し、入会勧誘を行った。
- 2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、入会勧誘を行った。
- 3) 本年度新規入会者

終身会員 9(5)名、 学生会員 17(10)名、 合計 26(15)名

- ④平成 24 年度末、対象者 57,744(56,599)名、会員 12,428(12,225)名、OB 会員入会率； 21.5(21.6)%
会員の内訳 終身会員 9,119(8,810)名、年度会員 3,309(3,415)名

(2) 活性化活動

①会員交流および広報活動

- 1) 会誌「ごきそ」を隔月刊行し会員に送付した。更に、3・4 月号は新入生に、5・6 月号は在校生の保護者に送付し、名古屋工業会の広報に資した。
- 2) ホームページの内容を随時更新し、内容の充実と即時性を高め、更にホームページを補完するため、各支部・単科会のホームページとのリンクを図った。またリニューアルについて検討を開始した。
- 3) 工業会が保有する卒業生名簿の整備のため、大学が作成する卒業生名簿を基に、単科会の所有する名簿との一元化に向けた検討を行った。

②支部活動

- 1) 各支部行事に対し理事長等が積極的に参加する等本部より協賛を行った。
- 2) 支部長会議を開催し、支部活動の現況と活性化等について検討した。

③単科会との連携

- 1) 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた学生の就職支援を行った。

④講演会の開催

- 1) 通常総会後に特別学術講演会を開催した。

講師：山田陽一 氏 (株)ノリタケカンパニーリミテッド顧問

演題：「白磁窯の技術史ー近代から現在までの技術革新ー」

⑤記念品の贈呈

- 1) 平成 23 年度の叙位叙勲者並びに国家褒章受章者に対し、第 46 回通常総会で記念品を贈呈した。

渡辺良彦 (A34)	旭日双光章	山口誉起 (M28)	瑞宝中綬章
公平珠躬	瑞宝中綬章		

- 2) 卒業満 70, 50 周年に該当する会員に、第 46 回通常総会にて記念品を贈呈した。

70 年ー昭和 17 年卒 34 名、50 年ー昭和 37 年卒 104 名 (60 年は該当者なし)